

令和4年4月21日

国立大学アイソトープ総合センター等
センター長、専任教員、事務担当者殿

新潟大学研究推進機構共用設備基盤センター放射性同位元素部門
部門長 伊藤 紀美子

第45回国立大学アイソトープ総合センター長会議
開催のご案内と資料原稿作成のお願い

拝啓

春陽の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2019年より世界的規模で流行したCOVID-19の猛威は、当初は1年程度で沈静化することも期待されておりましたが、発生から3年目を迎えた現在においても新たな変異株の流行など未だ楽観する事の出来ない状況にあります。このような現状の中、アイソトープ総合センターの皆様におかれましては、この新型感染症への対応に加え、放射線施設の管理と放射線教育や啓発あるいは福島第一原子力発電所事故被災地域への支援等の活動に日々尽力されておられることと存じます。

近年、放射性同位元素(RI)を使用したトレーサー実験は減少する一方ですが、現在でもRI法は感度や精度・実験に要する時間などの点で、非RI法と比べて有利な点が多いことは周知の理であります。今後も放射線に関する正確な知識と安全管理の下で、RIの長所を生かした実験法の開発と普及に努めることが必要と考えられます。また、PET、SPECT-CT、放射線がん治療等の医学利用や先端的量子ビームの利用の普及に伴い、研究現場における新たな支援業務も生じてきており、教育・研究・安全管理の現場におけるアイソトープ総合センター群の果たす役割は益々拡大していくものと考えられます。

このような情勢を背景にアイソトープ総合センター群の情報交換の場として、新潟大学を開催当番校として「第45回国立大学アイソトープ総合センター長会議」を別紙1のとおり開催いたしたく、ご案内申し上げます。

本年の会議では文部科学省大学研究基盤整備課の担当官によるご講演と原子力規制庁放射線規制部門の担当官のご講演を予定しています。また、老朽化や非密封RI利用の減少等が問題になるなかアイソトープ総合センターとしてどのように対応していくか、そして今後のアイソトープ総合センターのあり方について話し合う機会を設けたいと考えております。各大学からは、例年どおり「センターの現状と課題及び今後の展望」についてご報告をお願い致します。

つきましては、会議の準備及び討論資料として下記の情報を別紙2の要領にて、電子メールでお送りくださいますようお願い申し上げます。

(1) 出席者名簿、(2) センターの現状と課題、(3) 承合事項、(4) 学内の放射線安全管理におけるアイソトープ総合センターの位置付けが分かる組織図、(5) 事務組織図、(6) 連絡先等一覧

(2)につきましては、例年通りのセンターの将来展望、RI及び放射線利用の拡大に向けた取り組み、施設の放射線安全管理の工夫等に加えまして、測定の信頼性の確保など法令改正を見据えた各校の取り組み等についてもご紹介いただけましたら幸いです。

なお、この電子メールは教員の方々のみにお送りしていますので、事務担当者の方にも連絡くださいますようお願い申し上げます。

敬具